

体験的「学テ」あれこれ

テストのためのテスト、練習・訓練の横行

河合 靖久

あの「学テ」で何が起ったのか

―過去への評価・反省の欠けた文部行政―

1961年に強行された、中学2～3年生全員対象の「全国中学校一斉学力テスト」で、香川県（61～62年）と愛媛県（63年）が「学テ日本一」の栄冠（？）に輝いた。祝葉や記念品が子どもに配られ、祝賀会で文部次官が祝辞を述べるなどの騒ぎだったという。(1) 「学テあつて教育なし」と指摘されたように学テの強行実施は、さまざまな退廃を生んだ。香川県と愛媛県の場合は、その典型である。学テに備えての補習授業など、日常の教育活動も学テに従属させられ、三年生の場合、出題範囲が二年生の学習内容のため、三年

生の授業はそこそこに、二年生の復習にあげられる毎日が続く。テストの当日は、成績の悪い子をよくできる子の左隣りに並ばせカンニングを奨励。学習遅れの子どもには欠席させ平均点を上げる。テスト中に教師が、誤答を指差し、難問の正解を書いた紙を持って『監督』して廻る。集められた答案用紙は、テストの集約地に集められる以前に、秘かに修正が加えられたケースも。こうして、学力テストは、教師と教育の退廃をつくりだしていった。(2) こうしたことは新聞でも報じられ、結果として、1965年に「悉皆（全員参加）から抽出（選択校）」に変更し、翌1966年、文部省は学テ中止を決定した。

2000年にはじまった現在の学テは、（*以下第

Ⅱ期学テと表記)「全員参加」「成績公開」で強行され、全国の学校で「真剣・真面目」に「学力向上」運動が取り組まれている。

私の経験で言えば、1966年の新採用で小学校に赴任し、持ち上がり2年目で6年生(1クラス45名)に「学テ」を実施した。今考えると、校長などの功名心や、県市町村、文部省(国)からの「要請」(圧力)の結果としての「希望校」参加だったらしい。

余談ながら、私が赴任した頃の組合は校長も一緒で、組合役員選挙の際、教務室で投票記帳中の我々の手元を校長が覗き廻るなど、不審な行動もあった。そんなこともあってか、赴任の年の宿日直拒否闘争中の12月に分会長に推された。

実施した学テ(1967)では、最初に国語の聞き取りがあったが、調整しておいたラジオのスイッチを入れる際、誤ってボリウムに触れたらしく冒頭部分は聞き取れなかった。他クラスとの比較・検討・調整が不要なので、新卒の私には励ましも叱責もなく、ただ雑務(採点等)に対する同情の声がけがあった。

前期「学テ」の経過と概略

(1956～1966 文部省実施の学テ)

(1)文部省(当時)は、1956年9月より毎年、学力に関する全国的な調査を実施してきた。

・小・中・高の7%(4～10～20%の資料も)の抽出(選ばれた)学校の最高学年(小6中3)が対象。

*この時点で「学テ」は、問題になつていなかった。

*しかし、栃木県など数県で、用紙を買い全県一斉に実施し、「教員勤務評定」として悪用。

(2)1961年から、中学校2・3年生全員を対象の「悉皆調査」へと拡大。

目的は、①生徒の学力形成状況を調査し、指導要領の学校における徹底状況を知る。②中学2・3年生の悉皆調査。指導要録にテスト結果の記載を義務付ける。③テスト問題は、文部省指導要領に準拠し、文部省が作成する。④結果処理は学校で行う↓市町村教育委員会集計↓都道府県教委集計↓文部省に報告⑤府県別の得点集計を公表する。

(3) 日教組（日本教職員組合）の反対闘争

「全国一斉学力調査」拒否の方針を決定。「学テ、ポイコット戦術」として、①文部省の教育統制のねらいと学テ反対の意義を、生徒・保護者・地域住民に訴え。②学テ当日は、テスト監督のポイコット、採点・集計処理事務拒否、平常授業実施。③学校長に共同闘争を呼び掛け、教育委員会に学テ実施中止要求を要請④地方議会に「文部省に学テ実施中止要求をする決議」を要請。⑤母親・地域婦人団体を中心に・学テの地域学習会や、教育懇談会（教員と共催も）県内にも開催地域があった。⑥子どもと学テについての話し合い↓自主判断尊重（高校生も）全国には「用紙を配らせない」「テストに参加させない」等の行動で裁判にまでなった県もあり、旭川学テ裁判の最高裁判決では組合（原告）が勝訴した。

(4) 新教組（新潟県教職員組合）による反対

全国との差は大きかったが、①無校名、無記名、②採点拒否。③指導要録不記入。④中学校校名、小学校抽出・希望校に反対（1961・2追加）で運動が組まれ、③の「指導要録不記入」は最後まで貫いたが、

「この闘争は教育内容・生徒の学力に関する問題だけに、本質理解を深めると共に小・中・高全組合員の意思統一がたまたか成功させる最も重要なポイントであったはずである。この点、組織全体としてみるとき中学校の組合員、それも二・三年の担任や校長をはじめ、事務担当と見られた職員にのみしわよせされることをしめうぶんに知りつつも克服できなかった。」（新教組・組合史三巻政策テストに抗して3結び）と痛恨の言葉で結んでいる。

しかし、各校ごとに見れば、何度も職場（分会）討議を繰り返し、テスト当日も早朝集会（分会会議を開き緊迫した職場が多かった。（以下、県内の事例の一部）

* 1962年小学校希望校の南魚沼郡・城内小学校では、当日朝、校長（組合員）が突然職務命令で用紙を配布し、そのための混乱で、係争が長期化。

* 新潟地震（1964・6・16）発生直後の混乱

・ 北蒲原郡・豊栄町教委が、テスト不実施を決定したが、県教委が介入し、夕刻に町教委決議を覆させる。
・ 新潟市教委は拒否したが、県全体終了まで「全校不実施」の発表を控えることを条件に、渋々認める。

* 1966年新教組新津市班は、新津市教委が、職務命令を抽出校に、業務命令を非抽出校に出したことについて、抗議行動をした。

* 1964年頃から、各地方裁判所で組合(原告)勝訴の判決が始めていた中でも、特に、新潟地震に直面し、被災していても県教委は、希望校も含めた全校参加全校実施に固執した。

行政にとつては「実施」が全てで、管理職にとつては一点でも平均点を上げることが全てになる。

子どもたちの健全な成長や、施設・設備・教授法などの改善は、二の次となって、主体である子どもを背景に押しやっている実態は、今も何ら変わっていない。

私の体験した「学力向上」・職場での「コマ

① 毎年の卒業式に「学テ」の向上を式辞に盛り込むことを通例としていた校長が、② 炉辺談話で「さすがベテラン教師は違う、学テの平均が上がった」と述べ③ 6年担任の教卓上にテスト用紙がさり気なく置いてあり、成績に拘る子が休み時間に開いて見ていた。④ 私が6年生担任時「習った漢字を練習しなさい」と指導しているから、気持ち的には同類と考える。ある年

「学テ」の平均点が下がり ⑤ 教務室の全員の顔がふつと明るくなった(と感じたのは、私だけか?) もちろん、⑥ 式辞から恒例の「学テ」の話は消えた。

(5) 前期と後期の差異を見極めて前進を
共通点

① 教育への競争原理導入

② 教育への管理統制のねらい

相違点(学テ2007にあつて、1961にない目的)

① 学力の国際比較の意識(PISA等による日本の生徒のテスト成績順位の下降への対応)

② 「教育再生会議」等の教育改革論への配慮

③ 発展的学力形成に重点を置く問題作成

④ 民間教育産業の公然たる介入

「学テの問題性」61学テとの違いと共通性から迫る 仲野 治雄 宇城久教育研究所HPより

(6) 学テに対する今後の対処は(紹介だけ…)

① 教育への世論形成：教育は誰のため? どんな教育・学校をめざすのか明らかに。

② 学テを通して体制側のねらいをあばくこと：競

争原理と新自由主義↓使い捨ての考え学力格差助長。

③市民と教育者・先生による教育改革：民主教育推進の方策をさぐる。

④学力形成の理論と実践の積み重ね：到達度評価の出番（学力の基本と発展）ことに発展的学力形成の筋道を構築する。

「児童生徒全員を対象の学力調査を、抽出やサンプル調査などに改め、学校別の結果公表を見直すことを求め」た声明（日本弁護士連合会・2014）や、「高度に競争的な日本の学校環境が、子どもものいじめ、精神障害、不登校、退学、自殺などを助長している可能性」の日本政府への勧告（国連子どもの権利委員会・2010）などを活かした運動が今後求められていると思う。

註（1）『愛媛教育残酷物語』1963・明治図書

『学テ日本一物語』1977・労働旬報社

註（2）『戦後日本教育史料集成・第八巻』

大田堯（調査団・団長）

（かわい やすひさ・所員）

「鍾（おもり）」をつける

研究所の一員となって、早や、三年目である。一日、一日がまたたく間に過ぎ去っているという感じだ。ついこのあいだ、サクラの花が咲いたと思ったら、もう、紫陽花の季節である。ススキが穂を出すのも、まもなくのことだろう。まさに、「光陰矢の如し」である。

昨年暮れに読んだ『せいめいのはなし』（福岡伸一、新潮文庫）に、「つまり「書きとどめる」ということは、それぞれの時間に鍾をつける、ということなんです。これは歌人の永田紅（こう）さんの言葉ですが。日記を書いてその日一日に鍾をつけるわけだし、随筆なのか小説のかたちで書くのか何かを書き残すことによって、流れてゆく一瞬一瞬の状態、そのときに立ち上がった自分の思いや記憶をとどめようとする。」という文章があった。フワフワとしてあつという間に通りすぎてしまう時間に、鍾をつける。はやく感じる時の流れを、教育雑誌を発行することで、おそく感じられるようにする。研究所はそんな役割も担っているのだろう。

（小野塚）